

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200584	
法人名	社会福祉法人 登米市社会協議会	
事業所名	認知症高齢者グループホームほほえみ	
所在地	宮城県登米市石越町南郷字新石沢前47-3	
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 5 日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	令和 4 年 10 月 3 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には目の前の桜並木、初夏は新緑と田んぼの稲の成長、秋には田んぼ一面の頭を垂れた稲穂と冬にはどんと祭の花火が目の前にあがり、1年を通して四季折々の眺めを楽しむ事が出来るとても自然豊かな場所にあり、戸外散歩や外出を楽しめます。又、同敷地内に特別養護老人ホームとデイサービスがあり、顔なじみの方も多く、交流しており、近くにはこども園がある為、子供たちが庭園で遊んでいる様子を眺めたり、手を振りあつたりして穏やかなひと時を過ごす事が出来ていると思います。市の委託事業である「家族介護支援レスパイト事業」も行っており、今年度はまだご利用はありませんが、情報交換を行ったり、市とも良好な関係を築いております。入居者様が日々笑顔多く過ごせるよう、一人ひとりの希望や気持ちを把握し、一緒に過ごせるグループホームをめざしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺には総合支所や消防署、小中学校、こども園、総合運動公園、協力医療機関などがある立地である。入居者の生活歴や出来ることなどを大切に、現有能力を活かした支援に努めている。コロナ禍で厳しい環境の中だが感染防止対策を徹底し、入居者の思いを行事や外出などで笑顔と喜びに満ちた暮らしの実践をしている。入居者全員で「チャチャワールド」に出掛け、チンチン電車に乗り紫陽花を眺め喜ばれている。地域住民からもらった柿は、入居者が役割分担し、皮むきや括り付けするなど干し柿作りを楽しんでいる。火災、地震、水害を想定し、日中帯及び夜間帯に避難訓練を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 認知症高齢者グループホームほほえみ )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で笑顔の多い生活を送って頂けるよう、「私たちは一人ひとりが毎日を笑顔で過ごせるよう寄り添う事を第一に考えます。」を理念にし、共有し実践しています。	年度初めに職員会議で振り返りを行い、笑顔での暮らしが大切であるとして継続とした。表情が暗い時など、笑顔で寄り添って話を聞くことで、表情が和らぎ、笑顔を取り戻した時など、理念が活かされていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(地域のお祭りや発表会、展示会等)に参加したり、自宅のある地区の敬老会に参加なさる方もいらっしゃいます。又、地域の方より、野菜等を頂く事もあり、食事やおやつに活用しています。	散歩時に地域住民や園児と会話を通して交流している。コロナ禍で行事やボランティアの受け入れを自粛しているが、できる範囲で相互交流に努めている。行政区に加入し会議などを通して、情報交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護110番」の窓口を設け、相談を受け付けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議でご家族代表の方、地域の区長、民生委員、福祉事務所、包括支援センターからのご意見や要望をいただき、日々のサービス向上に努めています。	入居者の生活状況や行事などを報告している。メンバーから、地区の情報提供や災害時に「入居者が一般避難所では難しいのでは」という提案を受け、市と別に避難所が確保できないか、相談している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議で相談をしたり、委託事業の介護家族支援レスパイト事業の受け入れを行い協力関係を築いています。	市へ介護認定更新や事故報告、オムツ券給付など相談している。市主催の会議や虐待防止勉強会等に参加し情報交換している。介護家族支援レスパイト1名を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関、居間、居室窓等の施錠は防犯の為に夜間のみとしています。又、ベッド柵等の身体拘束も行っておりません。	身体拘束11項目を理解し、身体拘束しないために、何が出来るか代替案を考え取り組んでいる。ベッド柵を使わないために問題要因を探り、ベッドを低くする、床に衝撃吸収マットを敷くなど、対応方法を検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやケアカンファレンス時に、日ごとのケア内容を見直し、身体、精神共に虐待が行われていない事を確認しています。	虐待が見過ごされないよう、着替えや入浴時に外傷やあざなどの身体的虐待がないか、暴言や言葉による抑制、行動制限などの精神的虐待がないか確認している。業務量などを話し合い、ストレス解消に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まもりーぶを利用されている方が1名おり、まもりーぶ担当者とは月1回の面談やその他、必要時に相談をしたり、連携を取っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と計画作成担当者のふたりで対応しており、入居者やご家族へ説明を行い、ご理解、ご納得して頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際や、お電話等で情報交換を行い、意見や要望を伺うようにしています。	家族から「出来ることはさせてほしい」や外出等の要望は、本人の出来ることを見極め、食事の準備や洗濯たみ、ドライブ等に反映している。検討結果は、家族に伝え職員と共に共有し、サービスの向上に活かしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングやケアカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、反映させています。	日々の気づきや意見、要望は、その場で可能な限り対応し、ケアの向上に活かしている。日勤専従の職員が、早番や遅番もできる勤務体制について話し合った。介護用品の見直し等の提案があり実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者全体会議には会長も参加し、意見を聞いていただいています。また、事業所巡視の際、職員の意見を聞いて下さいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、講習会等には声掛けを行い参加を進めておりますがコロナ禍の為、実際の参加は少ない状況です。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県GH協会や登米市の介護保険事業者連絡協議会に入会しており、交流や情報交換を行い、サービスの質向上に繋げております。	コロナ感染による職員不足に係る応援体制などの情報交換している。認知症カフェの開催案内などを通して交流している。隣接の特養やデイサービスとケアに関する相談などを通して、サービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は新しく入所なさる方はまだ居ませんが、入所なさる方が決まった時には、ご本人とお話する機会を多く持ち、安心して入居していただけるように対応したいと思います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度は新しく入所なさる方はまだ居ませんが、入所なさる方が決まった時には、ご家族とお話する機会を多く持ち、安心して入居していただけるように対応したいと思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今年度は新しく入所なさる方はまだ居ませんが、入所なさる方が決まった時には、ご本人とご家族が必要としている支援を見極め、安心して入居していただけるように務めたいと思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者も職員も暮らしを共にする者同士、入居者の出来る範囲での役割をもつていただき生活して頂いています。(掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭き、洗い等、職員と一緒にしています。)		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や外出を支援し、また、日々の様子をお電話やお便り等でお知らせしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で地域行事が少ない状況ではありますが、地域の行事がある際にはご家族や職員と参加をしたり、顔なじみの方の面会等により交流が続くよう支援しています。	家族や息子、娘などが来訪している。馴染みの美容院や買い物で知人と会うなど継続につながっている。隣接の特養やデイサービスへ知人に会いに出掛けている。自宅や地域内の馴染みの場所へドライブしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠い等、意思疎通が難しい方には職員が寄り添い、会話がうまく通じるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は退所なさる方はまだ居りませんが、そのような際には、ご本人とご家族に「何かありましたらいつでもご連絡してください。」とお伝えし、支援していきたいと思いません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中でご本人の要望や希望を聞いたり、困難な場合はご家族に伺ったり、職員間で検討しています。	日々の会話からドライブしたい、野菜作りをしたい、塗り絵、計算ドリルしたい等、個々の思いを実現している。その人の思いを実現させるため、職員間で情報共有し支援している。思いなどは、家族へ伝え共に支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在入居なさっている方達は、入居前にご本人やご家族、利用しているサービス事業所から情報を集め、これまでの暮らし方や生活環境の把握をしており、不明な点は本人やご家族から聞き取りを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方を観察、記録し、職員間で共有し現状の把握に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、主治医の先生等の意見を聞き、全職員で話し合い、介護計画を作成し、3ヶ月に1度の見直しも行っている。	家族から機能維持や出来ることはさせてほしい等の要望がある。軽体操や散歩、茶碗拭き、野菜作りなど、現状に即した介護計画となっている。身体状態に変化などがある場合は、随時支援内容の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録や業務日誌に記録し、職員全員で把握することで介護や介護計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内のデイサービスや特別養護老人ホームと交流し、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑仕事等のボランティアで地域の方に来ていただいており、また、発表会や展示会等の地域行事に可能な限り参加しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医となっている近くの診療所と歯科医院があり、受診や往診をしていただいています。また、入居前からのかかりつけ医がある方は受診の際に情報提供を行っています。	入居前からのかかりつけ医3名、協力医は6名で、協力医以外の受診は家族が付き添っている。身体状態の報告は書面などで行い、受診結果は記録に残し共有している。協力歯科医は、月2回訪問診療がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師は勤務していませんが、隣接の特別養護老人ホームやデイサービスに看護師が勤務しているので、入居者に異変があった時はすぐに相談し、適切な受診や看護が受けれるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度、現在まで入院等の状況になる入居者はいませんが、そのような際は、病院関係者との情報交換や相談に努め、そうした場合に備えた関係づくりを行いたいと思います。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医との24時間の医療連携が困難な為に看取りは行っていませんが、入居者が重度化した場合にはご本人、ご家族と話し合いを行い、特別養護老人ホーム、老人保健施設への入所や医療機関への入院等の支援を行っています。	「利用者が重度化した場合における対応に係る同意書」で、看取りを行っていない旨を説明し同意を得ている。要介護度3に認定されると、特養などへ入居申込みをしている。身体状態を見極めながら、本人や家族の意向に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは全ての職員が把握し、定期的な訓練も行っていきます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害を想定した訓練を年1回ずつ行っており、運営推進会議や地区委員会等で地域の協力もお願ひし、体制を築いています。	夜間想定含む年4回の訓練を実施している。夜間訓練は、地震発生による火災を想定し、19時から実施している。前回の反省を活かし煙除けに洗面台のタオルを使用した。住民の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた声掛けを行い、排泄、入浴、着替え時には特にその方の誇りやプライバシーを損ねないように注意し対応しております。	排泄や入浴、着替え時は、トイレや居室のドアを閉めるなど、プライバシーに配慮している。入居者のこれまでの生活や性格など理解し、役割を依頼する時などは、本人への確認と納得を基本として対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが遠慮せずに話が出来る雰囲気づくりや話しかけを職員全員で心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の個々の生活リズムを把握し、その方のペースに合わせ、出来る限り希望に沿った支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の洋服選びや整容の声掛けと支援を行っております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の特別養護老人ホームの栄養士が作成した献立を参考に入居者の希望を取り入れ、準備や後片付け等、入居者と一緒に行っております。	野菜の皮むきや盛り付けなどを一緒に行い、食事が楽しみとなるよう支援している。行事食や誕生日会は、出前の寿司や祝い膳などが喜ばれている。季節食は、はっと汁やカボチャばっとう等が楽しみ食となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握し、十分な栄養や水分が摂取できるように体調や状態で接種形態を変更し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄、うがい等を一人ひとりの能力に合わせて支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を記録し、パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援を行っています。	職員は排泄周期を基に、見守りや誘導などで、出来ないところを支える自立支援に取り組んでいる。自立している3名は、見守りと声掛けで支援している。排泄周期に合わせた声掛けや誘導で失禁が改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事提供と水分摂取、適度な運動を心がけております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間帯等、一人ひとりの希望になるべく浴い、清潔保持もできるように支援しています。	週2～3回、午前・午後を基本に、長年培ってきた生活習慣や希望に沿って支援している。毎日入浴したい方がいれば対応している。入浴剤の使用やゆず湯や菖蒲湯で、季節の楽しみも取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間はご本人の意思と体調を考慮し、午睡は生活習慣として定着している方と、その時々意思により任せております。就寝時は個々に合わせた居室内の温度調整を行い、気持ちよく休めるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更があった場合は説明書にて確認、把握し服薬時には手渡しや介助にて飲み込むまで見守りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や出来る事を把握し、日々の生活に取り入れています。又、好きなお菓子等の食べ物も気分に応じて食べれるように用意しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って戸外散歩や買い物、ドライブ等行っております。又、ご家族の協力をいただき、ご家族との外出も行っております。	外出は感染防止対策を徹底し、入居者の希望に沿うよう支援している。ホーム周辺を車椅子の方も一緒に散歩している。買い物や伊豆沼の蓮まつり、白鳥見学、一関のリンゴ園などに出掛け、四季折々を楽しんでいる。家族と自宅や選挙に出掛けている方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いをお預かりしております。又、自己管理できる方はご家族の了承を得てご自身でお金を持ち、ご家族や職員と買い物等にも行けるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為、面会や外出の機会が少なくなっているため、一人ひとりの希望にそって、電話での会話や手紙のやり取りが出来るように支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は窓からの光や風を適度に取り入れ温度調整もこまめに行っております。又、季節を感じられるような飾りつけを行っております。	居間兼食堂は、明るく、温湿度管理や換気を行い感染防止対策を講じて、快適に過ごせるよう工夫している。観葉植物「金のなる木」を置き、入居者と一緒に作った吊るし雛や柿の貼り絵などを飾っている。入居者が集い、和やかに過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも気の合う入居者同士が同じテーブルに座っていただき、廊下やホールに椅子やベンチを設置し、気の合った方と過ごしたり、お一人の時間を過ごすのに活用していただいております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使い慣れた家具の持ち込みをお願いし、自宅のお部屋に近い空間づくりを行っております。	居室の入り口に、手作りの表札を掲げている。希望で使い慣れたベッドを持ち込んでいる。本人や家族の希望に応じた配置や飾り付けで、自分らしい居室となっている。塗り絵や雑巾を縫うなど、自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、廊下には手すりを設置し安全に歩きやすくしております。トイレの表示は視力の良くない方にもわかりやすく大きめに表示しております。		